

システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 21 年度	学位名		修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	張 恭
指導教員氏名 佐藤 亮				
報告書題目 在中国日系家電企業のビジネス戦略 (在中国日系家電企業の経営戦略に関する分析)				
報告書概要 <p>中国は、1979 年以後の改革開放政策により工業化が進展し、外資を積極的に導入し、高い経済成長を継続している。90 年代後半から、中国は投資・輸入主導型成長から投資・輸出主導型成長へ転換しており、経済成長の安定を目指している。一方、家電産業については、中国家電産業が国民経済と緊密にかかわっており、家電産業工業生産総額は、国民経済の成長にともない、成長のトレンドを示している。中国家電産業がすでに安定した発展段階に入ったといえる。高度な経済成長にともない、中国国民収入が大幅に上昇している。国民収入の増加に潜む巨大な購買力からみて、中国家電市場の発展性が非常に明るいと考える。</p> <p>本章の研究目的は、在中国日系家電企業に対して、戦略提言を行うことである。ここで日系家電企業の代表であるパナソニックを中心に、分析、提言を行うこととする。</p> <p>研究方法として、まず中国家電市場の需要状況および需要構造に着眼し、中国家電市場の将来性を確認する。次に、PEST 分析と 5Forces 分析を通し、マクロ環境とミクロ環境との 2 側面から、中国家電市場のビジネス環境を分析する。最後に、分析した結果に基づき、SWOT マトリックスを作成し、パナソニックの戦略論点を明らかにし、かつ戦略提言を行う。</p> <p>今後の課題として、パナソニックの製品がハイエンド製品として位置づけられているため、製品価格は、中国地場家電企業の製品より高い。技術資源のグローバル化にともない、中国およびその他の国の家電企業は、日系家電企業に比べて技術の差がますます縮小するようになるため、数多くの企業は、製品のコストコントロールに取り組んでいる。いかに企業の技術優勢をコスト優勢に転換させ、最大限にコストを削減するかということについて、さらに分析、研究する必要があると考えられる。</p>				
審査日 平成 22 年 2 月 3 日				
審査員	(大学名 職名)		(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 准教授		博士(理学)	原田 信行
副査	筑波大学 教授		理学博士	佐藤 亮
副査	筑波大学 教授		Ph.D. in Sociology	松田 紀之